

分科会活動報告 Conductivity Anomaly 研究会

2002年3月9日(土),東京大学地震研究所第1会議室にて Conductivity Anomaly 研究会が開催された。年度末にも関わらず,多数の参加者を得て盛会となった(22機関・56名)。

平成13年度は,地震予知計画の共同観測として日高地方と鳥取県西部地方において広帯域MT観測が実施された。これらの観測結果をはじめ,ローカルからグローバル・スケールまでの電気伝導度構造に関する研究発表が行われた。また,地震や火山など地殻活動に関わる電磁気現象に関する研究発表もあり,活発な議論が行われた。引き続き行われた研究打ち合わせ会では,各研究機関・プロジェクトの情報交換が行われ,次年度の共同観測に関する方針を討議したほか,固体地球電磁気学の将来計画について議論がなされた。また,地球電磁気・地球惑星圏学会の学会名変更問題についても若干の意見交換が行われた。

以下に当日のプログラムを掲載する。

開会の挨拶：上嶋誠(東大地震研)

1. 電気伝導度構造

座長：小川康雄(東工大火山流体研究セ)

01. 日高地域での広帯域MT観測

日高2000MT探査グループ 代表 茂木透(北大理)

02. 太田断層における広帯域MT観測

坂中伸也・西谷忠師(秋田大工学資源)

03. 鳥取西部・中部地域の比抵抗構造調査

宇都智史・塩崎一郎(鳥大工)・大志万直人(京大防災研)・吉田賢一(鳥大工)・笠谷貴史(京大防災研)

04. 鳥取県東部・及び兵庫県北部での比抵抗構造

笠谷貴史・大志万直人(京大防災研)・塩崎一郎(鳥大工)・中尾節郎・矢部征・藤田安良・近藤和男(京大防災研)・宇都智史・吉田賢一(鳥大工)

05. MT法3次元インバージョンのインドネシア地熱地域への適用

内田利弘(産総研)

休憩(10:45-11:00)

座長：茂木透(北大理)(11:00-12:00)

06. 沈み込み帯地震発生域の電気伝導度構造

後藤忠徳(海洋科技セ)

07. 地殻構造推定問題におけるこれからの課題

中島崇裕・横山由紀子・熊澤峰夫(サイクル機構・東濃地科学セ)

08. 1969年のgeomagnetic jerkから推定される下部マントル電気伝導度不均一性

長尾大道・家森俊彦・樋口知之・荒木徹(京大理)

昼食休憩(12:00-13:00)

2. 地殻活動電磁気学

座長：上嶋誠(東大震研)(13:00-13:45)

09. 油壺の比抵抗変化(潮汐周期)の原因について - 歪でなく海水の浸透による -

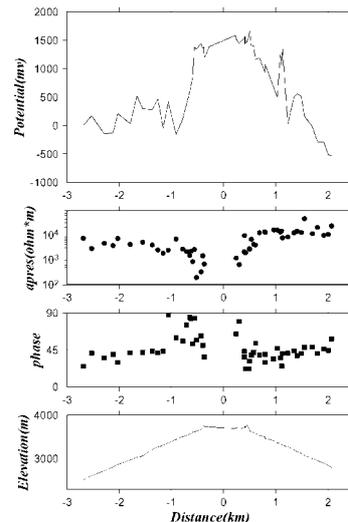
吉野登志男・石川良宣・歌田久司・上嶋誠・Olivier Gensane(東大震研)・笹井洋一(東京都)

10. 富士山頂火口付近の自然電位分布

相沢広記・山崎健一・大志万直人(京大防災研)

3. 研究打ち合わせ会

進行役：歌田久司(東大震研)(13:45-16:00)



図：富士山山頂部の自然電位異常(相沢広記氏提供)。上から,自然電位分布,VLF-MTの見掛け比抵抗,位相差,地形標高。